

## 日本海洋学会 2015 年度 6 回幹事会議事録

日時：2016 年 1 月 4 日(月)13：30～17：40

場所：パレスサイドビル マイナビルーム 2F-X

出席者：日比谷会長、神田副会長、石坂、市川、伊藤、小埜、小畑、川合、河野、鈴木、東塚、津田、原田、山中、事務局毎日学術フォーラム（小野、平坂）

議題：

### 1. 審議事項

#### (1) 議事録承認（伊藤幹事・川合幹事）

2015 年度第 5 回幹事会議事録ならびに秋季評議員会議事録を確認し、承認した。

#### (2) 入退会について（小畑幹事）

2015 年 10-11 月の入退会を承認した。11 月現在の会員数は 1734 名。

#### (3) シンポジウムの後援・協賛などについて（小畑幹事）

4 件の後援・共催について承認した。

#### (4) 募集・推薦等の依頼について（小畑幹事）

公募 1 件、シンポジウム・講演 2 件、その他 4 件について適宜通知・依頼を行ったことが報告され、承認した。

#### (5) 名誉会員の推薦について（小畑幹事）

名誉会員候補者の推薦理由書が提示され、幹事会終了後 1 週間程度で確認修正を行い、本人確認の後、3 月の評議員会に諮ることを承認した。

#### (6) 2016 年度「日本海洋学会青い海助成事業」募集要領（案）について（鈴木幹事）

海洋環境委員会より、2016 年度青い海助成事業募集要項が提案された。募集時期を限定した「一般提案型」に加え、随時募集の「緊急提案型」という募集カテゴリーを設けたこと、事業が年度をまたぐ場合について記載したこと、会計報告の際に領収書あるいは支出簿などの提出が必要である旨明記したことなどが説明され、一部の字句を修正後、承認した。なお、提出された会計書類は会計幹事が確認することとなった。

#### (7) JO Open Choice/Access と掲載料について（石坂編集長）

J0におけるOpen Choice（論文毎に著者が選択）とFull Open Access（雑誌全体）の導入について議論した。Open Choiceの場合、1論文あたりの著者負担は2200EURであること、学会として5%の印税収入が見込めること、著者が著作権を保有することが説明された。Open Choice導入に向けて、どのような権利が著者に移るのか、すでに掲載された論文をOpenにすることは可能かについてSpringerに確認した後、改めて審議することとなった。会員特典として、会員がOpen Choiceを選択した場合には該当論文の掲載料を免除することが提案され、賛同を得た。ただし、掲載料の規定変更については評議員会に諮る必要がある。

Full Open Accessについては、今後の実現に向けて科研費の獲得も含めて検討することとなった。

また、掲載済みの論文の一部が掲載料未納であることが報告された。対応として、支払い確認後に掲載するよう編集手続の変更を検討することとなった。すでに掲載済み論文の未納著者への対応についてはJ0編集委員会で検討することとした。

#### （8）投稿規定の追加について（石坂編集長）

Short Contributionの定義について、J0編集委員会で議論した結果、刷り上がり6ページ以下とすることが提案され、承認した。編集委員会にて投稿規定案を作成し、幹事会での審議に諮ることとなった。内容によらず長さで定義されていることを投稿規定に明記することを確認した。

#### （9）J0編集委員の交代について（石坂編集長）

J0編集委員の交代が提案されたが、候補者の業績リストが用意されていなかったため、審議は次回幹事会へ先送りした。

#### （10）防災学術連携体への参加について（日比谷会長）

2011年に設立された「東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会」の発展形として、2016年1月9日に「防災学術連携体」が設立される。海洋学会としてこれに参加することが提案され、承認した。担当幹事は神田副会長、委員は神田副会長と升本会員とする。設立時に開催されるシンポジウムには升本会員が参加し、海洋学会の活動について紹介する予定。

#### （11）小学校理科第4学年単元「海を考えよう」の新設に関する提言案について（伊藤幹事）

海洋教育問題研究会より、小学校理科第4学年単元「海を考えよう」新設の提言を行うことが提案された。次期学習指導要領の改訂に向けたもので、他学協会との共同提言を作成し、3月末に中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会理科ワーキンググループに提出する予定であるとの説明がなされた。これについて他学協会との調整を開始すること

を承認した。また、海洋アライアンス海洋教育促進研究センターの動向を確認することとなった。

#### (1 2) 会計年度・事業年度 WG (仮) (小畑幹事)

2017 年度の大会について、総会、授賞式、受賞記念講演、シンポジウムの開催時期を検討した。

総会ならびに各種委員会については、3 月に開催すると会場の手配・準備が別途必要となること、参加者減が予想されること、秋季の開催には会則変更が間に合わないことなどの理由から、5 月 (JpGU-AGU 合同大会へ合流して開催する春季大会期間中) に行うこととし、次回評議員会に諮ることとなった。

受賞記念講演は、秋季大会で行うこととした。また、秋季大会の開催時期を通例の 9 月より遅らせたほうが良いという意見が出された。これらについて、開催候補地の会員の意向を確認した後、評議員会で審議することとなった。

シンポジウムについては、これまでシンポジウムを共催してきた他学会や研究会との意見交換を行い、その後改めて審議することとなった。あわせて、JpGU 大会中のシンポジウム開催の可能性ならびに参加費の確認を行うこととなった。

#### (1 3) 来年度予算について (河野幹事)

来年度の海外若手派遣事業について、予算 40 万円で実施を継続することとした。奨励賞の賞金は現在の 5 万円を維持すること、防災学術連携体の年会費 3 万円を新規に学会予算に計上すること、女子中高生夏の学校の参加経費を学会予算に計上すること、現在計画中的の出前授業については費用不要であることを確認した。また、会計年度・事業年度 WG (仮) の予算を新たに計上する可能性があることが報告された。

## 2. 報告事項

### (1) 会長 (日比谷会長)

角皆名誉会員のご逝去にあたり哀悼の意が述べられた。

セッション制を導入した 2016 年度春季大会の申込が締め切られ、昨年度より 92 件多い 331 件に達したことが報告された。

JpGU に関して、蒲生会員がセクションプレジデントに選出されたこと、5 月 22-26 日に大会が開催されること、理事選挙が行われることが報告された。

マスタープラン 2017 について、12 月 25 日に日本学術会議地球惑星科学委員会地球・惑星圏分科会でヒアリングが行われ、「深海アルゴフロートの全球展開による気候・生態系変動予測の高精度化」というタイトルで日比谷会長が発表を行ったことが報告され、発表

資料が説明された。本提案について、水産・海洋科学研究連絡協議会所属の15学協会、日本古生物学会、日本学術会議食料科学委員会水産学分科会などの賛同を得たことが報告された。また、JpGUユニオンセッションで地球・惑星圏分科会のマスタープラン2017のコンテストがあることが報告された。さらに、日本学術会議総合工学委員会・機械工学委員会合同フロンティア人工物分科会の提案会への出席要請が来ており、対応を検討していることが報告された。

原田幹事から、マスタープラン2017の今後のスケジュールとして、2-3月に公募、7-9月に重点候補課題の選出とヒアリング、12月にマスタープラン提言が予定されていることが紹介された。

## (2) 神田副会長

平成27年度第2回水産・海洋科学研究連絡協議会(11月26日)、日本学術会議食料科学委員会水産学分科会(11月27日)においても日本海洋学会のマスタープラン2017の提案について説明を行ない、上記の会長報告の通り、賛同を得たことが報告された。

その他、学界動向を次回NLに掲載予定であること、若手支援の取り組みを適宜実施する予定であることが報告された。

## (3) 庶務(小畑幹事)

各賞推薦書を作成したことが報告された。当初、対象論文を2編とする候補者があったが、細則を確認した結果、1名1篇に変更したことが報告された。

## (4) 会計(河野幹事)

2015年度秋季大会実行委員会から学会に100万円の寄付を戴いたことが報告された。

## (5) 編集

### ① J0(石坂編集委員長)

71巻6号(6編106ページ)を発行したこと、2月号として震災特集セクションを発刊予定であること、その他2つの特集セクションについても順調に作業を進めていることが報告された。

### ② 海の研究(市川編集委員長)

24巻6号(2編38ページ)を発行したことならびに次号以降の準備状況が報告された。また、投稿規定の改訂、掲載ガイドの検討が継続していることが報告された。

### ③ ニュースレター(津田編集委員長)

次号第4号の原稿締め切りが1月末であること、賞推薦書、選挙結果、学会関連情報を掲載予定であることが報告された。角皆名誉会員の追悼文を乗木会員に依頼することとした。

#### (6) 研究発表（鈴木幹事）

2015年度秋季大会の会計が完了し、大会実行委員会から学会に100万円の寄付を戴いたことが報告された。

2016年度春季大会のプログラムについて、現在編集作業を進めており、プログラム編成委員会での承認を経て確定する予定であることが報告された。また、承認済みのシンポジウム1件について日程変更の申し出があり、幹事会ML審議により承認したことが報告された。

#### (7) 選挙（山中幹事）

各賞選考委員選挙ならびに各賞可否投票を実行中であること、開票日ならびに選挙結果の確定日に若干の変更があったことが報告され、今後の作業と担当を確認した。各賞の受賞講演の座長については、受賞決定後に集会幹事から依頼することを確認した。

#### (8) 広報（小笠幹事・原田幹事）

一般向けの学会ウェブページについて、他サイトを参考にしてテストページを作成し、幹事会にて意見を乞う予定であることが報告された。

2016年度春季大会での発表について、各セッション1件ずつのハイライトプレゼンテーションをコンビーナーに選出してもらい、プレスリリースを行う予定であること、プレスリリースについてのマニュアルを作成し、広報委員に配布したことが報告された。

#### (9) 海洋環境委員会（鈴木幹事）

本年度の青い海助成事業2件が始動したことが報告された。

#### (10) 教育問題研究会（伊藤幹事）

理数系学会教育問題連絡会に、JpGU教育検討委員会理数系学会教育問題連絡会担当委員として市川会員が参加することとなったことが報告された。その他、研究会の活動内容、2016年度春季大会でのポスターイベントの内容が報告された。

#### (11) 日本地球惑星科学連合（原田幹事）

理事立候補者受付中であること、フェロー選挙については推薦がなかったことが報告された。

#### (12) 日本科学振興財団（日比谷会長）

研究船と練習船のあり方についてのレポートの作成が進められていることが報告された。

(13) 震災対応 (神田副会長・小埜幹事)

「福島復興・廃炉推進に貢献する学協会連絡会」に参加したこと、同会からアンケート回答依頼があったため、回答案を作成してメール審議に諮る予定であることが報告された。

また、学会ウェブサイトの震災関連ページを更新したことが報告された。

(14) 水産・海洋学研究連絡協議会 (津田幹事)

11月27日に伊藤幹事が水産・海洋学研究連絡協議会に出席したことが報告された。大型研究提案や次期学習指導要領への提言など、協議会の役割がより重要になりつつあるという意見が述べられた。

次回幹事会は3月に開催する。